

# 東日本大震災復興支援 生活支援相談員ニュースレター～VOL. 26～

平成30年2月発行

## 【発行】

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ  
岩手県盛岡市三本柳 8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7532

## 多機関による事例検討会を開催～地域で支援していくネットワークづくり～ 宮古市社協

平成30年1月21日（日）、宮古市社会福祉協議会は、本会の多職種・多機関協働による被災者支援実施要領に基づくアドバイザーの派遣により、淑徳大学総合福祉学部准教授の山下興一郎氏を講師に事例検討会を開催しました。



事例検討会は、宮古市社協職員のほか、社会福祉士事務所、市福祉事務所（生活保護ケースワーカー）、あんしんサポート事業に参画している社会福祉法人の職員等多機関が参加し、地域の社会資源を活用しながら多機関で対象者を支える体制づくりを目標として行われました。

山下准教授からは、事例検討会の意義、社会福祉法人の存在意義や役割、社会資源開発に向けた講義と助言がありました。また、個別事例の支援方針の検討に留まり

ず、各機関での新たな取組を検討するまでの視点が盛り込まれていました。

### ★山下准教授からの助言★

- 内外の機関とネットワークづくり、役割分担、社会資源の開発のためにも事例検討会は必要である。
- 事例検討がうまくいかない時は、アセスメントが不十分・見立てが足りない。個の問題が不十分なので、地域づくりもうまくいかない。
- 事例検討に当たっての「軸」づくりとして、私は「誰に対して」「どこで」「何をする人か」「どこまで責任をもてるか」自分自身のアセスメントが必要。その人が生きている世界で理解すること、あったらよいなという資源を協働の営みの中で地域社会に耕すこと。
- 事例検討の後、ストンと落ちない、よくわからない時は、もう一度現場に戻り、情報を取直し、支援を続けてみるときである。

宮古市社協では、事例検討会を開催する前に、地元の資源が協働で対応方針を検討する機会が不足していることを課題として挙げていました。

今回の事例検討をきっかけに、次年度以降も継続し多職種・多機関連携を更に深めていきます。



## 自治会役員等情報交換会が開催されました

### ☆ 陸前高田市社協主催 ～市内災害公営住宅自治会役員等情報交換会～ ☆

陸前高田市社会福祉協議会は、平成 29 年 12 月 3 日(日)に市コミュニティホールで市内全 11 か所の災害公営住宅を対象とした自治会役員等情報交換会を開催し、7 か所の災害公営住宅の役員 14 名が参加しました。

下和野(120 戸)、中田(197 戸)、柄ヶ沢(301 戸)の大規模公営住宅グループと、西下(40 戸)、大野(31 戸)、今泉(61 戸)、脇の沢(60 戸)の中小規模公営住宅グループに分かれ情報交換を行いました。各グループには、生活支援相談員が進行・記録役に入り、災害公営住宅ごとに色分けした付箋にメモし模造紙にまとめました。



「役員は好きでやっているわけではない」「ストレスが大きい」等、負担を抱えている役員も見られましたが、「年配の方に“いつもありがとう”と感謝されるのでやつていける」、「規模が違えど悩みながら活動していることは同じ」、「これまで気付かないこともあったし、皆のやる気を聞き、頑張る気力がわいた」等の感想が挙げられました。

その後、生活支援相談員は、今回出席できなかった 4 か所の災害公営住宅の会長宅を訪問し、情報交換会で挙げられた内容や様子を伝えました。

なお、この取組の詳細は、今年度発行する生活支援相談員活動事例集に掲載しています。

### ☆ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構主催 ～岩手県大型災害公営住宅自治会交流会～ ☆

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構は、平成 30 年 2 月 11 日(日)に陸前高田市の県営柄ヶ沢アパート集会所で交流会を開催し、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の 100 戸以上の災害公営住宅 8 か所の自治会役員等 37 名、支援者等約 40 名が参加しました。

①県営の災害公営住宅の会長、②市町営の災害公営住宅の会長、③、④副会長、総務部等、⑤文化企画部等、⑥環境衛生、防犯防災部等の 6 グループに分かれ、意見交換を行いました。主催

の岩手大学の船戸義和氏が全体進行、5 市町の社協、陸前高田まちづくり協働センター、いわて連携復興センターが各グループの進行・記録を行い、グループ毎にテーマを決め話し合いました。

「みんなが参加する自主活動」というテーマで話し合った副会長、総務部等グループからは、「あせらず、無理せず、期待せず。仕組みを難しくせず、誰でも参加できる活動を作る」という話が挙げられました。岩手大学船戸氏からは「あせらず、無理せず、あきらめず。あきらめないで自治会に無関心な人にもアプローチし続けることが大事であること、最初から大きいものをつくろうとせず、初めは 5 人でも、5 人のサークルがいくつかでき、それが大きくなっていく」という話が挙げられました。

